

< 機械・農作業の共同化を実施している事例 >

機械利用組合による集落の活性化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	佐賀県佐賀市 <small>みつせむらだいななく</small> 三瀬村第7区		
協定面積 30.5 ha	田(100%) 稲作等	畑	草地 採草放牧地
交付金額 444万円	個人配分 共同取組活動 (97%)	役員報酬 道路・水路の維持管理等 共同利用機械購入費等 多面的機能増進活動費 その他(交付金の積立、繰越(集落営農組織設立経費))	3% 5% 12% 38% 6% 36%
協定参加者	農業者 38人		

2. 取組に至る経緯

本集落では、平成8年度に集落内の有志による機械利用組合が設立され、農作業機械の共同利用がなされていた。第1期の中山間地域等直接支払事業においても、機械利用組合の活動により耕作放棄地発生防止に取り組んできた。

第2期には、機械利用組合の範囲が協定集落全体に広がり、全戸参加型の組織に発展している。

3. 取組の内容

平成19年度にはトラクター2台を購入し、格納庫1棟を建設した。

平成20年度末には、強い農業づくり交付金事業を活用し、燃油使用量の削減と労働時間抑制を目標に、代かき同時播種作業が可能な水稻直播機を導入した。

平成21年度は水稻の作付け面積のうち75%を水稻直播機により作付けを行い、これにより作業人員及び作業時間が削減され、平坦地域に比べ何倍もの労力がかかる中山間地域での生産性向上が図られた。機械の共同利用により生じた人的・時間的余裕を今後は集落の活性化につなげていきたい。

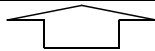
また機械利用組合の集落営農組織への発展を目指しており、設立のための準備を進めている。



平成20年度末に導入した水稻直播機

[集落の将来像]

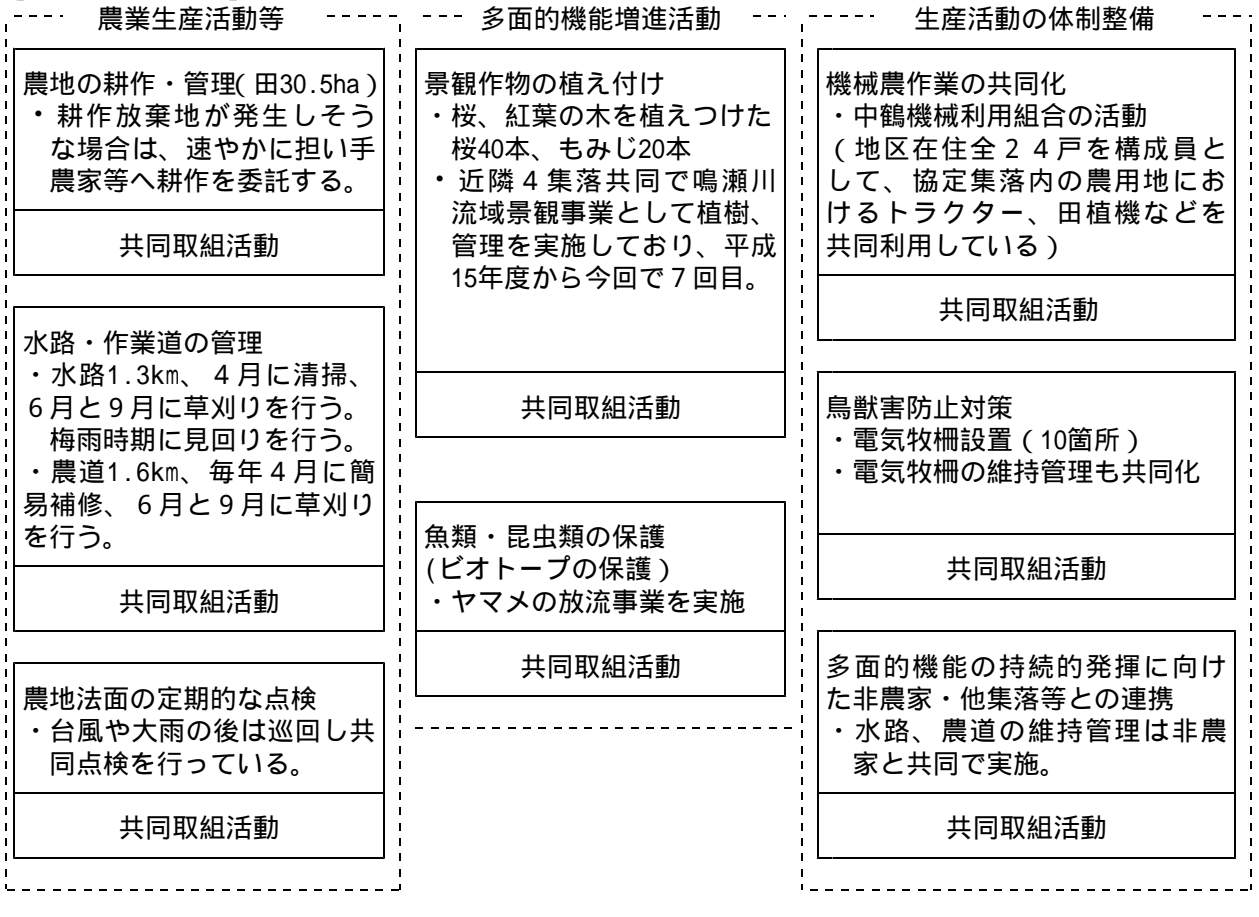
機械利用組合を中心としてさらに共同化を進め、全戸参加型の高能率な農業生産体制の整備を通じ、新規作物の導入等検討しつつ、高齢者や女性等の力も活用して集落全体の生産性向上に向け推進する。



[将来像を実現するための活動目標]

機械利用組合から全戸参加型の集落営農組織を目指す。
 高齢者、女性、後継者の力を活用し、新規作物等の研究を進める。

[活 動 内 容]



集落外との連携

植樹・花壇整備などを行う鳴瀬川景観事業を、他集落と連携して実施している。

4 . 取組による変化と今後の課題等

機械利用組合主体の農業に転換することにより、集落全体に時間的余裕が生じたことを活かし、集落で建設したハウスでの女性部の野菜・花作りや体験型農村レストランの設立などによる集落の活性化を目指す。また、機械利用組合を中心とした集落営農の実現により、集落全体の一層の生産性向上を目指す。

[平成21年度までの主な成果]

水稻直播機を導入し、16.5ha中12.5haを水稻直播機の共同利用により作付けした。
 農家民宿を核として、県の“食と農”プロジェクト活動支援事業に取り組み、都市住民との間で農作業体験セミナーを行い交流を深めた。